



THIS IS IN ABE BRAND

Since 2005



選ばれるまち。
いなな、いなべ。

いなべブランド冊子 2017 年度版

三重県 いなべ市

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。いなな、いなべ。



この冊子は、これまでの活動をまとめたものです。既に全国的な行政サービスとして普及したのものも含まれます。



INNERBAY

いなべブランドロゴ

INABEのIとBの文字をモチーフに、人と人々が支え合う姿と、青は豊富な水が流れる員弁川、オレンジは躍動する市民の活力、緑は自然豊かな大地を表現しています。

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。
いなべ、いなべ。

Contents

ブランドの目的	6
いなべブランド既存事業	10
● ママ元気 赤ちゃんすくすく	11
● どこでも子育て支援！	12
● 生きる力をつなげる チャイルドサポート	13
● 検査、発見、元気なからだ	14
● 健診受けて湯かった	15
● 「からだ」も「地域」もゲンキに！ ～元気リーダー始動～	16
● 「元気づくり」は「地域づくり」 いなべから全国へ	17
● 青川の清い流れと緑で…元気注入！	18
● 「いなべの里の蕎麦」全国への挑戦	19
● 三重県モデルいなべの集落農業	20
● 農業公園発！スローライフとロハスな暮らし	21
● プロのサイクリストが集うまち いなべ	22
● できることから始める環境教育	23
● どの子どもわかり参加できる授業づくり	24
● 地域と共に育つ学校	25

Contents

● ふるさとの川にすむネコギギを守りたい	26
● プールで育む子どもの元気 ～安全と笑顔～	27
● 美しい水環境の創出	28
● 地域のHERO消防団	29
● 納税意識の高い街、いなべ	30
● 全国1位の電子市役所	31
● リンクでつなげよう市民の輪	32
● YouTubeとつながる映像館	33
● 先進的文書管理「ファイリングシステム」	34
終了したいなべブランド事業	35
● みんなでサポート「働く笑顔」	36
● ホタルの里づくり	37
● 学校と地域が取り組む花壇づくり	38
いなべ市について	39

THIS IS INABE BRAND

ブランドの
目的

いなべブランドの目的

長期ビジョン

住みたいまち・住み続けたいまち いなべ
挑戦する人が集う 元気あふれるまち いなべ

短期ビジョン

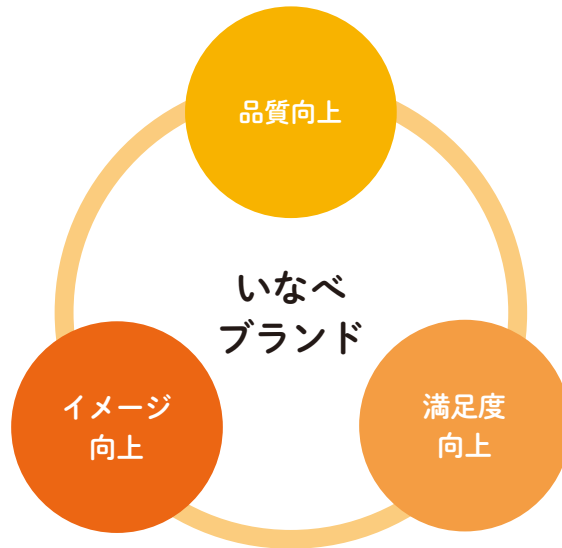
市民の満足度向上
市内外のいなべ市に対するイメージの向上
(人、企業、団体、自治体)

いなべ市が目指す長期ビジョン



平成 27 年度策定の「いなべ市まち・ひと・しごと創生総合戦略計画」に基づいて、いなべ市民やいなべ市を訪れた人に『いなべ市は本当に“いなべ!”と実感していただけるように、いなべブランドと言われる先進的な行政サービスを創造し、提供し続けることで、ひともまちも元気な活力あふれるまちをめざしています。

いなべ市が目指す短期ビジョン



品質向上のために

いなべブランド事業は、市役所のサービスをより向上しようとチャレンジや改善を重ね続けた結果、生まれました。いなべブランド事業を創り磨き上げることで、更なる品質向上につなげます。

満足度向上のために

いなべブランド事業を創り磨き上げる。それは高品質を約束し、信頼関係を築き上げ、市民満足度を向上させることです。

イメージ向上のために

まちのイメージは、人が「住み」「訪れ」、企業が「進出する」うえで重要な要素です。このイメージは、市役所のサービスの優劣によっても大きく左右されます。ブランド事業を発信しイメージ向上につなげます。



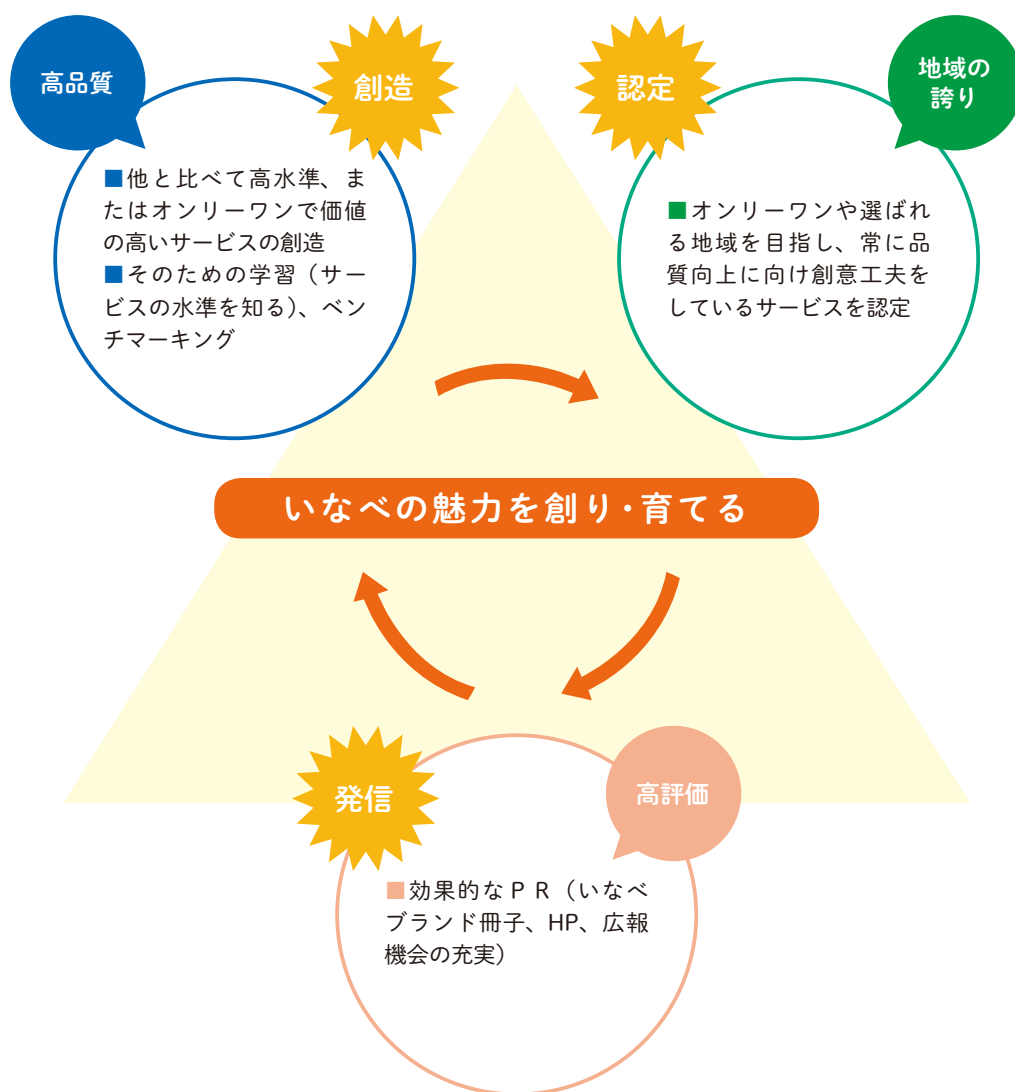
基本姿勢

行政サービスの品質向上に向けて
創意工夫(挑戦)し続ける

いなべブランドの推進

いなべブランドとは、行政サービスの品質向上に向けて創意工夫（挑戦）し続ける活動とその理念に照らし合わせて市が認定した行政サービスです。品質が高く内外から高い評価が得られる事業を創造し、発信することで、市民の満足度向上、市内外のいなべ市に対するイメージの向上を図り、「住みたいまち・住み続けたいまち（信頼と絆）」、「挑戦する人が集う元気あふれるまち（元気・活力）」を実現します。

いなべブランド確立イメージ図



THIS IS INABE BRAND

既存ブランド
事業

ブランド No

1

更新
H29.7.1

ママ元気 赤ちゃんすくすく

こんにちは赤ちゃん訪問事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

健康や病気に関する“専門家”保健師が、乳児（おおむね生後2か月から4か月）がいる全ての家庭を訪問します。赤ちゃんの成長や健康はもちろんのこと、ママへの質問票（EPDS※）でママの安心もサポート。日本公衆衛生学会の優秀演題、NHK「おはよう日本」での紹介など、トップランナーとしての取り組みが高く評価されています。

※エジンバラ産後うつ病自己調査票

事業概要

保健師は、看護師の資格に加え、病気やけがの予防を手助けする国家資格をもった健康や病気に関する専門家 specialist です。担当課に保健師資格をもった職員を配置しています。

予防接種、母子保健事業（健診・育児相談等）などの情報や、子育て支援センター、保育所等、赤ちゃんの成長に応じた情報を提供します。また、ご家庭にあった子育ての方法をママと一緒に考えます。

悩みを積極的にお聞きし、専門的なアドバイスにより不安の解消のお手伝いをします。

育児不安の強い母親や支援の必要なお子様に対しては、各課や関係機関とも連携し、訪問や電話相談など、成長に応じて継続的に支援します。

何故、赤ちゃん訪問！？

子育ては、初めてでも、二人目でも、不安が一杯で気づかないうちに産後うつ状態に陥っていることもあります。だからこそ、子育て中のお宅へ訪問し、

■ こんにちは赤ちゃん訪問の状況

	対象者	訪問実施	訪問率
H26	366件	366件	100%
H27	384件	379件	99%
H28	385件	385件	100%



赤ちゃんの発達確認



赤ちゃんの身長計測



母子健康手帳の確認

評価・
マスコミ
紹介等

- ・全国CR-1グランプリ（H22年）優秀賞
- ・日本公衆衛生学会（H21年）優秀演題
- ・三重県公衆衛生学会（H20年）奨励賞
- ・NHK「おはよう日本」（H19年）放送
- ・厚生労働省全国都道府県児童福祉主管課長会議で紹介（H19年）

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-78-3517
FAX 0594-78-2678
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

ブランド No

2

更新

H29.7.1

どこでも子育て支援!

各種子育て支援事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
“いなペブランド”

満2歳までに全ての親子に2回絵本を読み聞かせ、1歳の誕生日に足型をプレゼント。保育士が合計3回面談し、子育て家庭の孤立化を防ぎます。常設の子育て支援センター5箇所に加え、様々な出前メニューが自慢。保育士が地域へ積極的に出向いて子育てを支援する日本で唯一!子育て支援専用軽自動車(キャンピングカー仕様)「おでかけGo(号)」は、人と人をつなぎ子育ての輪を広げる強力なツールです。

事業概要



①出生(前)
いなペパパの子育てガイドブック



②6ヶ月
ブックスタート



③1歳
1歳おめでとう訪問



④2歳
ブック・Reスタート



⑤子育てランド



⑥出前ひろば・出前テントひろば



⑦子育て応援団

①
子育てガイドブックとパパの子育てガイドブックを妊娠届や出生届の際に配布します。

②④
子育て応援団が子育て支援センターで絵本の読み聞かせをします。参加できなかった方へは保育士が家庭訪問し、絵本をプレゼントします。

③
保育士が全戸を訪問して足型をプレゼントします。

⑤
2歳児を対象に保育園を開放し、保育園の雰囲気を楽しむ、親同士の交流の場を提供します。

⑥
「おでかけGo(号)」におもちゃをたくさん積んで地域の公民館、公園などに出向きます。

⑦
地域で支えあう子育ての輪がさらに広がるよう地域住民が子育てを応援します。

評価・
マスコミ
紹介等

・H23年度 おでかけGo(号) NHKニュース845、ほっとイブニング、CBCラジオなどで紹介
・H22年度 出前テントひろばの様子が第2回子育てひろば0123育ちの詩 フォトひろば物語入選
・H21年度 各種子育て支援施策 内閣府HP「わがまちの子育てお国自慢」で紹介

お問合せ

健康こども部 児童福祉課
電話 0594-78-3519
FAX 0594-78-2678
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランド No

3

更新

H29.7.1

生きる力をつなげる チャイルドサポート

チャイルドサポート事業

事業開始年月日 平成21年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

こどもの健やかな育ちのために、市部局間の垣根を取り払い創り上げたシステムです。こどものライフ・ステージに合わせ、母子保健・保育・教育・障がい福祉の各部門が連携。発達に支援を要するこどもを、出生から就労まで途切れなくつなぎ、支援します。

事業概要

○見つける

・母子保健・保育園・子育て支援センターが連携し、支援が必要なこどもをより早く見つける活動を行ないます。

○見守る

・乳幼児健康診査や発達相談の結果、必要と思われるこどもには保育園と保健師が連携して支援や見守りを行ないます。
・3～5歳が在籍する市内の全保育園で同じ基準でこどもの発達状況を確認します。

○支援する

・発達状況により、支援が必要と思われるこどもには保育園が個別の指導計画を作成し支援を行います。
・丁寧な支援が必要と思われるこどもには、保護者の同意の下、未就園児には健康推進課が連携して、在園児には保育課・発達支援課・社会福祉課が連携・協働して、通級型の療育教室を行い支援します。

○つなげる

・得意なこと、苦手なことを含めて、こどもの姿を保育要録として保育園から小学校に引き継ぎます。

・小中学校では、教育支援委員会の意見や保育要録を基に校内委員会で検討し、こどもの状況に合わせた特別支援教育を推進しています。

・支援を要するこどもには、その特性や保護者の願いを引継ぎ、より良い支援が受けられるように相談支援ファイル（ハピネスファイル）を活用します。

○高める

・保育園の特別支援保育コーディネーターと、小中学校の特別支援教育コーディネーターが連携するとともに、合同で研修を行っています。
・保育園や小中学校では、各種巡回相談・研修・指導を充実させています。
・保護者、保育士、教員など、こどもの支援者を援助するために、発達支援課に専門職員（臨床心理士・言語聴覚士等）を配置しています。



相談支援ファイル
「ハピネスファイル」



通級型小集団療育教室
「ステップアップ教室」

評価・
マスコミ
紹介等

・H28年9月、県政チャンネル「輝け！三重人」でチャイルドサポート事業が紹介されました。
・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築に向けた取組を支える体制づくりに関する実践的研究」のH25～27年度研究協力機関に指定されました。

お問合せ

健康こども部 発達支援課
電話 0594-78-3530
FAX 0594-78-2678
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

ブランド No

5

更新

H29.7.1

検診、発見、元気なからだ

保健検診事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

市民の皆様の高い健康意識と、忘れずに、いつでも、どこでも、必ず検診できるきめ細やかなサービスにより、平成26年度がん検診受診率三重県1位(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん)と同3位(乳がん)。市民の皆様の健康増進に大きく貢献しています。

事業概要

「巡回ドック」「病院ドック」「各種がん検診」のそれぞれの検診で、がん検診を実施しています。毎年3月初旬に受診希望調書を各個人に郵送し、各検診受診希望者の把握を行い、検診時期が集中しないようにしています。希望される全ての方に受診していただけるよう、また、受診者の負担が出来るだけ軽くなるよう、次のような工夫をしています。

- ① 本年度に受診した方には、翌年度新たに申込をしなくても自動的に受診できるようにしています。
- ② 受診者の都合による日程変更にも柔軟に対応できるようにしています。

- ③ 国民健康保険加入者の方には、がん検診と特定健康診査(国保事業)が同時に受診できる総合検診(人間ドック)として、巡回ドック(旧4町の市施設で実施)と病院ドック(いなべ総合病院・日下病院)が選択できるようにしています。

- ④ 「各種がん検診」は、申し込んだ全て(肺がん検診以外)の検診を同日に受診できるようにしています。

- ⑤ 子宮頸がん検診は病院と提携して一人でも多くの方が受診できるようにしています。

■平成27年度地域保健・健康増進事業報告

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
いなべ市	39.6	48	66.7	78	79.8
県	3.6	9.2	11.9	22.6	17.3
国	6.3	11.2	13.8	23.3	20



検診に訪れる市民の皆さん



庁舎前の検診車(巡回ドック)

評価・
マスコミ
紹介等

中日新聞(H23年3月18日掲載)
H21年度三重県内全市町のがん検診受診率
1位 乳がん、子宮がん、胃がん、肺がん
2位 大腸がん

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-78-3517
FAX 0594-78-2678
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランド No

24

更新

H29.7.1

健診受けて湯かった

特定健康診査事業

事業開始年月日 平成25年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

健診の受診者に阿下喜温泉の利用券「お得（とく）ーポン」をプレゼントし、健康増進に積極的に取り組む市民を応援しています。

また、医療費分析により健康課題を見つけ出し、保健指導に活かしているのも特徴です。

事業概要

特定健診は生活習慣病のリスクを早期に発見するためのものです。大切な健診なのですが、国民健康保険加入者の健診受診率は全国的にも低く、どうしても皆さんに健診を受けてもらえるか、各市町では工夫を凝らしています。

市民の皆さんの健康意識が高いいなべ市は、特定健診の受診率が県内でもトップクラス。しかしそれでも受診率は50%程です。

健診を受けて、自分の健康管理を自ら取り組む人に対しては、インセンティブとして何か特典をという思いから、平成25年度から「健診受けて湯かった事業」を実施しています。

国民健康保険特定健診受診者へ「お得ーポン」を配布し健康増進に積極的に取り組む方を応援しています。

お得ーポン：健康増進施設阿下喜温泉入浴券2枚・トレーニングルーム利用券1枚、ラフィーラ体操利用券1枚（1,700円相当分）

平成27年度お得ーポン利用者は延べ3,700人です。

○糖尿病を知る集い

医療費を分析したところ、いなべ市では糖尿病に焦点を当てた対策が必要であると判断しました。そこで、特定健診の結果を元に健康推進課と連携し糖尿病予備軍の方に、特定保健指導教室「糖尿病を知る集い」を開催しています。

健康推進課が対象者へ食事・運動の管理等を指導し、保険年金課はデータの分析等で保健指導をサポートしています。参加者は楽しく学びながら生活改善に取り組み、成果をあげています。

	受診率 (H27年)
全国平均	36.0%
三重県平均	41.9%
いなべ市	51.4%



お得ーポン



岩風呂



トレーニングルーム

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

市民部 保険年金課
電話 0594-72-3829
FAX 0594-72-3334
住所 いなべ市北勢町阿下喜2633

ブランド No

6

更新

H29.7.1

「からだ」も「地域」もゲンキに！ ～元気リーダー始動～

元気づくりシステム 1 健康増進事業 2 介護予防事業

事業開始年月日 拠点コース…平成14年4月 集会所コース…平成19年4月
元気リーダーコース…平成20年10月

こんなところが
“いなべブランド”

健康増進と介護予防を目的に、体操を自治会の集会所などで実施。参加者は運動習慣によって体も心も健康になり、地域活動にも積極的に参加するようになって地域を元気にしています。所定の回数を受講した「元気リーダー」が指導者となり、地域の中で「元気づくりシステム」を広げています。医療費を抑えながら元気な生活がおくれ、地域のマンパワーを活用した仕組みが高く評価され、第3回健康寿命をのぼそう！アワードで「厚生労働大臣 優秀賞」を受賞しました。

事 業 概 要

元気づくりシステムは、ストレッチ体操、ウォーキング、ボール運動などを取入れた健康増進、介護予防体操です。介護予防体操は、運動器の機能向上を主な目的とした体操で「一般社団法人 元気クラブいなべ」のオリジナルです。コースは、大きく分けて「①拠点コース」、「②集会所コース」、「③元気リーダーコース」の3コース。

住民自立型 81 地区・元気リーダー 703 名
(平成 28 年度末)

①拠点コース…

市内の体育館などの4施設で1回2時間程度の運動を実施

②集会所コース…

指導員が集会所まで出向き、運動を中心に1回90分間、週2回6か月間実施102地域で実施(平成28年度末)

③元気リーダーコース…

集会所コースを終了した参加者のうち、30回以上受講した人が「元気リーダー」となります。集会所コース終了後も、引き続き集会所でストレッチ体操、ウォーキングなどの指導者となって活躍します。



全国地域づくりサミットで、元気リーダーによる体操を披露【いなべ市北勢市民会館で】



元気リーダーによる活動の様子【北勢町畑毛地区】

評価・
マスコミ
紹介等

- ・東海北陸厚生局主催「地域包括ケア市町村セミナー」で事例発表(H29年1月)
- ・日本公衆衛生学会で当事業を発表/第74回シンポジウム方式による発表(H27年11月)
- ・第3回健康寿命をのぼそう！アワード(H26年度)「厚生労働大臣 優秀賞」受賞(介護予防・高齢者生活支援分野 自治体部門)
- ・㈩日本総合研究所「事例を通じて我がまちの地域包括ケアを考えよう」で紹介(H25年度 厚生労働省補助事業)
- ・総務省定住自立圏地域医療連携推進調査事業(H24年度)

お問合せ

1 福祉部 長寿福祉課
電話 0594-78-3520
FAX 0594-78-1114
2 健康こども部 健康推進課
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランド No

25

更新

H29.7.1

「元気づくり」は「地域づくり」! いなべから全国へ

元気づくりシステム全国発信事業

事業開始年月日 平成24年2月

こんなところが
「いなべブランド」

進む高齢化。待ったなしの対策は国や全国の自治体における重要政策の一つです。「元気づくりシステム」は、医療費削減や、健康増進・介護予防などの公衆衛生の観点、さらには地域づくりの観点から、住民の力を活用した超高齢社会の切り札として、全国から注目を浴びています。厚生労働省の介護予防モデル事業や総務省の医療軽減研究事業に採択されるなど、「いなべモデル」の全国展開が加速しています。

事業概要

○元気づくりシステム全国発信

「元気づくりシステム」は、健康を維持し、将来、介護状態にならないようストレッチ体操、ウォーキング、ボール運動などを取り入れた健康増進・介護予防運動を効率的・効果的に市民へ普及させる仕組みです。所定の研修を受けた市民「元気リーダー」が、地域へ戻り仲間を募って地域の集会所などでプログラムを展開します。また、定着に不可欠な元気リーダーのフォローアップを定期的に実施しています。

この「元気づくりシステム」が全国の自治体等で導入され、日本国民のための「元気づくりシステム」へと展開されるよう、次のとおり産官学民と協働し全国発信・普及を進めています。



群馬県川場村で元気づくり体操を披露する元気リーダーら

1 ブラッシュアップ事業

「元気づくりシステム全国普及研究会」の開催を中心に

- ・自治体及び団体に「元気づくりシステム」の視察研修及び導入提案
- ・元気づくりシステム効果の検証、研究
- ・自治体間の住民交流事業の実践、研修

2 普及啓発事業

「元気な地域づくりを考える首長研究会」の開催を中心に

元気づくりシステム関連の全国的なシンポジウムや研究会の開催

- ・シンポジウム
平成26年度 熊本県南関町で開催
平成27年度 福岡県伊達市・広島県北広島町で開催
平成28年度 実施自治体4会場で事業説明会を開催

3 その他PR事業等

- ・各省庁の情報収集とPR活動
- ・健康増進、介護予防、ツーリズムなどの関連企業の情報収集やPR活動
- ・地域包括ケアシステムでの元気づくりシステムの活用の実証(厚労省モデル事業 市町村介護予防強化推進事業の実施)
- ・元気づくりシステム実施自治体数2市4町(平成28年度)

評価・
マスコミ
紹介等

・総務省自治体大学校「H27年度課題研究用事例教材」として採用
・元気づくりシステム紹介、報告関連書籍
「住民組織活動を通じたソーシャルキャピタルの醸成、活用の現状と課題」(日本公衆衛生協会)
「事例を通じて、我がまちの地域包括ケアを考えよう」(㈱日本研究所)

お問合せ

福祉部 長寿福祉課
電話 0594-78-3520
FAX 0594-78-1114
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランド No

7

更新

H29.7.1

青川の清い流れと緑で… 元気注入!

青川峡キャンピングパーク事業

事業開始年月日 平成15年4月12日

こんなところが
“いなべブランド”

アウトドアに詳しいキャンプライフクリエイターが常駐し、ベテランキャンパーはもちろん、充実の設備で初心者や小さな子連れ家族にも優しい日本屈指の高規格オートキャンプ場です。平成24年、新たに「かもしかキャンプフィールド」がオープン!ファミリー向けに加え、学校・企業など団体向けの施設もさらに充実しました。キャンプの楽しさとともに、日常にアウトドアを取り入れた、ライフスタイルの提案をしています。

事業概要

まさに“おもてなし上手”なキャンプ場
スタッフのサポートと充実した設備で、初心者や
ファミリーも安心、快適に自然の中で楽しめます。

平成15年オープン、鈴鹿山脈の麓にある青川峡キャンピングパークは、西日本屈指の人気キャンプ場として全国にも広く知られています。炊事場やシャワー室、清潔なサニタリー、それぞれの好みに合わせて宿泊できる別荘感覚のコテージ、山小屋気分のログハウス、キャンプスタイルに合わせた5種類のオートキャンプサイト、雨でも安心な炭火焼ハウス(全天候型バーベキュー施設)など施設が充実しています。(総サイト区画48区画 建物類16棟)

また、年間を通じてスタッフ手作りアイデア満載のイベントや体験プログラムを企画。季節で表情を変える青川峡の自然を独自の視点でガイドする「フィールドウォーク」や焚き火でおやつをつくる「焚き火レストラン」、夏休みには青川の支流をアタックする「青川シャワーウォーキング」や「マスのつかみ取り」を開催。また田植えから草取り、稲刈り、脱穀まで1年を通じて減農薬有機栽培の米作

りを体験する「田んぼの楽校」や、季節に応じた自然体験プログラムのほか、キャンプフェスやクリスマスキャンプ、年越しキャンプなど一味ちがうこだわりのイベントを年間通して開催しています。

センターハウスにはキャンプギアを豊富に揃えたショップ、手ぶらでも道具が全てそろえられるレンタルルーム、浴場などが備わり、キャンプ初心者やこれから始める方を万全のサポートでお待ちしております。

アウトドア専門誌などにもよく取り上げられ、GWや夏休み、週末はもちろん、1年を通して県内外からの来場者で大変な賑わいぶりです。設備の充実、清潔さ、サイトの広さ、周辺の自然、スタッフの好感度、どれをとっても満足のいくキャンプ場です。

青川峡キャンピングパーク <http://www.aogawa.jp>

三重県いなべ市北勢町新町 614

☎ 0594-72-8300



写真：年間を通じて開催されるイベントとキャンプ場の様子

評価・
マスコミ
紹介等

- ・CBCテレビ花咲かタイムズ(H28年12月放送) 他テレビ、アウトドア雑誌にて多数紹介。
- ・BE-PAL2017極上キャンプ場BEST100(2017年5月号)
- ・BE-PAL ほんとうに気持ちいいキャンプ場100選出(2016/2017版)
- ・オートキャンプ専門誌“ガルヴィ”人気キャンプ場ランキング 西日本部門3年連続1位(2012~14年)

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-46-6309
FAX 0594-46-6319
住所 いなべ市藤原町市場115

ブランド No

8

更新

H29.7.1

「いなべの里の蕎麦」 全国への挑戦

いなべブランド創出事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

おいしいそばが育ついなべの自然環境下、48haの作付面積は三重県No.1。そのほとんどは、契約栽培により名古屋市の大規模な手打ちそば打ち店や神戸の手打ちそばの名店で使われています。一般には「そば祭り」や「そば打ち体験講座」などを開催して交流人口を増やし市内からそばが特産品であることを誇れ、地域おこしと位置づけ“そば打ち人口日本一”を目指しています。

事業概要

○作付面積県内一

目指せ！いなべのトップブランド

美味しいそばが育つ条件は、ソバの花が咲く時期から実が大きくなるまでの気候が、冷涼で昼夜の気温差が大きいことです。10月のいなべ市がこれにぴったりです。また、そばは水が大の苦手です。灌漑用の溜池に頼る水田農業を行う地域では、この水の不便さがそば栽培に好都合。また、サルの被害に苦しむ農家もそばなら被害を受けず安心して栽培できます。

市の重要な農産物と位置づけ、ブランド化に取り組んでいます。平成14年度に生産を開始。20年度には生産農家8軒が集まり、いなべ市そば生産部会を設立し、「いなべの栽培暦」と「出荷基準」を作り品質を高めています。

味と品質の高さから名古屋の有名店でも使用。そば粉だけでなく付加価値を付けた商品開発で、そばの生産量を拡大させ農家の所得向上につなげています。いなべ市のトップブランドとして、「いなべの里の蕎麦」を全国へ発信しています。



○そばで地域おこし

そばには人と人のつながりを育む不思議な魅力があります。いなべ市では、そば打ちを楽しむ人やこれを指導する方が続々と増えてきており、手打ち技術の研鑽を行っています。また、全国でも数少ないそば打ちの技術を評価する段位認定会を行い、そばを打つ人はいなべ詣を行い、三重のそばはいなべが産地と言われるよう努力しております。また、全国から名人を招き、そば打ち指導などで交流する「そば祭り」の開催、そば打ちをこよなく愛する「愛好会」の誕生など、そばで交流を広げようとする市民が増えていきます。親子行事や学校行事で育てたそばを児童が打つ体験プログラムは、次世代のそば打ち愛好者や「いなべの里の蕎麦」を誇りに思う人を育みます。合言葉は、“そば打ち人口日本一”「いなべブランド」を全国へ発信。



左上 全国優良生産表彰/右上 親子打ち方教室/左下 蕎麦打ち名人/右下 そば祭(農業公園)

評価・
マスコミ
紹介等

・H27年度 全国素人そば打ち段位認定いなべ大会開催
(後援:一般社団法人 全蕎協)
・H20年度 全国そば優良生産表彰受賞
(財団法人 日本蕎麦協会)

お問合せ

農林商工部 獣害・ブランド対策室
電話 0594-46-6060
FAX 0594-46-6309
住所 いなべ市藤原町市場115

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド事業

いなべ市について

三重県モデル いなべの集落農業

集落組織づくり推進支援事業

事業開始年月日 膝づめ座談会 平成16年1月1日/集落支援 平成17年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

「人・農地プラン」策定集落数県内1位（76集落）。農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、若者の地域離れ農業離れという課題を解決するため、将来の集落農業のビジョンを示すいなべ市独自の集落営農の仕組みをつくり上げました。集落の合意により「集落協定書」又は「人・農地プラン」を締結し、集落ぐるみで農業を支援していく仕組みが、三重県の集落農業のモデルとなるなど、先駆的な市独自の取り組みが国や県で高く評価されています。

事業概要

○課題解決に向け全集落と膝づめ座談会

いなべ市発足を機に、集落ぐるみでの農業を守り育てて行くため、市・JA・県の担当者が市内全ての集落に出向き、地域住民と膝を付き合わせ、各集落農業の現状と将来像を共有する「座談会」がスタートしました。農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、次世代の地域離れ、農業離れなど、今直ぐ解決しなければならない課題がどの集落でも山積していました。

○集落協定書又は人・農地プランによる集落ぐるみ農業生産体制の確立

農地・水路・農道等の維持管理方法、農業生産活動、農地利用調整機能、担い手の明確化等を盛り込んだ「集落協定書」又は「人・農地プラン」を、集落農家の合意のもと締結することによる「集落ぐるみの農業生産体制」の確立を進めることになりました。集落の農業を集落みんなで力を合わせ守っていく仕組みです。この体制の確立を進めるため、平成17年度からいなべ市「集落組織づくり推進支援事業」がスタートしました。

○集落組織づくり推進支援事業

この事業は、様々なメニューの中から、その集落独自の活動に合った支援を市が行います。これにより、集落の創意工夫と独自性が発揮されます。水田が持つ多面的機能を維持し、集落農業を守り、農村の持つ多くの機能が着実に後世へと引き継がれて行くための取り組みを進めています。

○代表的な集落営農の取り組み

（農）丹生川中営農組合は昭和59年に設立。「自分たちの農地は自分たちで守ろう」を合言葉に、組合員が共同作業を行い、収穫した農産物は集落内で消費するなど集落ぐるみの営農組合を実現しています。体験教室の開催による保育園や小学生との交流や、高校生を含む若者の参加・定着など、集落内の調和がとれているのが特徴です。このような活動が評価され、第41回日本農業賞三重県表彰を受賞しました。



膝づめ座談会



田植え体験会



共同で草刈り作業



黄金色に輝いた稲穂の刈取り

評価・
マスコミ
紹介等

・農林水産省のホームページにモデル事業事例として掲載
・H27年度東海農政局農地中間管理事業表彰(事業地区部門、事業調整員部門)受賞
・関係団体等の視察研修受入多数

お問合せ

農林商工部 農林振興課
電話 0594-46-6306
FAX 0594-46-6319
住所 いなべ市藤原町市場115

ブランド No

10

更新

H29.7.1

農業公園発！ スローライフとロハスな暮らし

いなべ市農業公園事業

事業開始年月日 平成15年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

東海地区最大級の梅林公園と牡丹園！

地域の高齢者たちが知恵を出し合い、ゆっくり手作りで作り上げてきた農業公園。「見る、遊ぶ、食べる」といったスロースタイルや、四季を体感できる癒し空間です。2月末から3月にかけて開催される「梅まつり」には、80,000人もの入場者数を誇ります。

事業概要

いなべ市農業公園は、東海地区最大級で約100種類の梅の花がある梅林公園と、牡丹園がある農業公園、パークゴルフ場、農業公園レストラン「フラール」などがあるエコ福祉広場の2施設を合わせて農業公園と呼んでいます。

38ヘクタールの梅林公園では、3月に「梅まつり」、6月に「梅の実もぎとり体験」や「梅ジュースづくり体験」、7月下旬から8月中旬に「ブルーベリー狩り体験」を開催します。

18ヘクタールのエコ福祉広場では、4月下旬から5月上旬にかけて「ぼたんまつり」を開催し、また、子どもからお年寄りまで親子3世代で楽し

める子ども広場、パークゴルフ場、お食事は、安全安心な地元野菜を中心としたビュッフェスタイルのレストラン「フラール」もあり、四季折々を楽しめる公園です。

地域の高齢者たちが知恵を出し合い、ゆっくり手作りで作り上げてきた農業公園で「見る、遊ぶ、食べる」とスロースタイルを体験でき、癒し空間となっています。

いなべ市農業公園 三重県いなべ市藤原町鼎
3071番地 ☎0594-46-8377



梅まつり（3月）



ぼたんまつり（4月下旬～5月上旬）



梅の実もぎとり体験（6月下旬）



ブルーベリー狩り体験
（7月下旬～8月中旬）



パークゴルフ場



農業公園レストラン「フラール」

評価・
マスコミ
紹介等

- ・東海テレビ「スイッチ」で放送（H29年3月3日）
- ・他テレビ報道5件
- ・オーライ！ニッポン大賞審査委員長賞受賞（H22年）
- ・花の観光地づくり大賞審査委員特別賞受賞（H21年）
- ・立ち上がる農山漁村受賞（H19年）

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-46-6309
FAX 0594-46-6319
住所 いなべ市藤原町市場115

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

ブランド No

27

更新

H29.7.1

世界のプロサイクリストが 集うまち いなべ

ツアー・オブ・ジャパン いなべステージ

事業開始年月日 平成27年5月19日

こんなところが
「いなべブランド」

世界最高峰の自転車大会、ツール・ド・フランスの出場チームも参加する、国内最高峰のステージレース、ツアー・オブ・ジャパン。地域の団体や自治会と協力して実行委員会を結成し、2015年、2016年と2年連続で開催しました。2016年の観客数は20,000人を記録。

豊かな自然を活かした起伏に富んだコース設定で、世界に「INABE」の名を届けました。

事業概要

現在、日本国内には「ツアー・オブ・ジャパン（略称：TOJ）」「ツール・ド・熊野」「ツール・ド・北海道」「ジャパンカップ」「ツール・ド・おきなわ」「ツール・ド・とちぎ」の6つのUCI（国際自転車競技連合）公認国際ロードレースがあります。

このなかでTOJは8日間8ステージという最大の大会規模を誇り、全体を通じた総観客数は30万人を超える、国内最高峰の国際自転車ロードレースイベントです。

「TOJ いなべステージ」は、いなべ市の自然豊かで起伏に富んだ道路環境を利用したコース設定を行い、海外トップ選手からも好評を得ています。

また、国際大会の開催を契機に、いなべ市を訪れるサイクリストも増加し、「自転車のまち いなべ」としてのブランド作りの大きな役割を果たしています。

大会の開催前には、地域の小学校で交通安全教室を実施し、「自転車での交通ルールの遵守」について指導するなど、地域貢献の一端を担っています。

今後は、平成33年に開催される三重国体の自転車ロードレースの会場として誘致し、さらなる「自転車の聖地」としての魅力づくりを行います。

<http://www.inabe-stage.jp>



評価・
マスコミ
紹介等

- ・各社新聞（中日新聞・朝日新聞など）報道29回（H27年9月～H28年6月）
- ・TV報道 20回（H27年9月～H28年6月）
- ・三重テレビ とってもウドドキ！（H28年5月18日）
- ・NHK ほっとイブニング三重（H28年4月27日）
- ・BS日テレ ツアー・オブ・ジャパン 総集編（H28年6月25日）等

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-46-6309
FAX 0594-46-6319
住所 いなべ市藤原町市場115番地

ブランド No

11

更新

H29.7.1

できることから始める 環境教育

員弁中学校環境教育推進事業

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

まだ全国において「緑のカーテン」が広く実践される以前（2006年）から、環境教育（温暖化対策）の一環として学校の中庭の教室前に「緑のカーテン」を設置。教室温度3.5℃低下に成功。できることから始める環境教育の取り組みは、環境関連団体から高く評価され多くの表彰を受けています。

事業概要

夏季に、校舎（1階普通教室）南側につる性の植物を育てることで、日陰を作るとともに、気化熱により熱放射を抑制し、室内温度を下げます。

○ 目的

夏季の室内気温上昇を抑えることで教室環境を整えるとともに、安易に電気エネルギー等を利用せず自然の力を活用することを通して「自分でできること」を考え、「持続可能な社会づくり」の一端を担う生徒を育てます。

○ 具体的な活動

4月下旬、プランター・苗の準備

生徒会活動の一環として苗の育成、観察を行います。

土づくりと苗の育成については、NPO「土っ子の会」、員弁中学校学援隊の協力を得て行います。

理科の授業において緑のカーテンの植物を観察し、気孔の観察、食物連鎖、光合成等の学習を行います。

環境教育において重要なことは、「身近なところ」で「まず自分にできること」を実践していくことと考えています。

「持続可能な社会」を開発していくためには、禁止するだけであったり、遠くの世界の話をしてい

るだけでは前へ進めません。

小さな一歩であっても、「身近なところ」で「自分にできた」ことを増やしていくことが重要で、緑のカーテンがその一歩になればと考えています。

この活動に対して「知識だけでなく体験と実践を通して省エネルギーを考えている」「これからの持続可能な社会づくりの学びを提供している」等の評価をいただいています。



校舎南側の教室前に大きく育ったゴーヤ



ゴーヤに集まってくる昆虫の観察

評価・
マスコミ
紹介等

- ・H20年度みえ環境活動賞（三重県）
- ・第15回コカ・コーラ環境教育賞主催者賞（コカ・コーラ教育・環境財団）
- ・「三重の環境と森林」（三重県HP）に掲載
- ・読売新聞（H19年8月29日）、朝日新聞（H19年8月11日）、日本教育新聞（H19年9月3日）に掲載

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-78-3507
FAX 0594-78-3526
住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

ブランド No

12

更新

H29.7.1

どの子どもわかり 参加できる授業づくり

山郷小学校特別支援教育

事業開始年月日 平成16年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

「特別」が見えない「特別支援教育」で「どの子どもわかる・参加できる」授業づくりの実践、「学習の約束を徹底」「教師のわかりやすい話し方」「子どもが退屈しない授業」を合言葉に進める授業改革の取り組みが、NHKのクローズアップ現代で取り上げられるなど、全国から高い評価を受けています。

事業概要

本校が目指す特別支援教育は、「どの子どもわかる・参加できる」授業を目指し、「学習で守るべき約束を子どもたちに徹底し」「教師が的確な話し方を心がけ」「子どもが退屈しない」を「授業づくり3つの観点」として、取組を進めています。



笑顔あふれる楽しい授業

守り、タイミングよく次の指示を出していきます。そうすることで「今、何をすべきかが」わかる授業を目指します。

○その3「リズムとテンポ」

子どもが退屈しないよう授業に「流れ」を作ります。テンポよく進むところと、じっくりと考えるところをつくり、メリハリのある授業を目指します。また、子どもの理解を助けるための視覚的支援となる図・絵・写真等も活用します。

この3原則のほかにも様々な支援を考え、授業に取り入れていきます。いわゆる「ユニバーサルデザイン」の授業で、「どの子どもわかる・参加できる」授業づくりを目指します。

○その1「学習規律の定着」

みんなで学習していく時に守るべき「10の約束」を明示し、どの子ども安心して学習に集中できる環境をつくります。

○その2「わかる発問、わかる指示」

教師の指示が明確に子どもに伝わるように「教師の話し方」「指示の出し方」に気をつけます。指示を出したら、子どもがそれを実行したかどうかを見



すっきりした机上で背筋ピン・腕もピン！

評価・
マスコミ
紹介等

・「指導と評価（図書文化：H24年4月発行）」をはじめ、多数の教育図書に実践が掲載。
・山郷小学校特別支援教育研究報告会（H20、22年度）
・三重県教育長学校訪問（H22年度）
・NHK「クローズアップ現代」全国放送（H20年度）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-78-3507
FAX 0594-78-3526
住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランド No

15

更新

H29.7.1

地域と共に育つ学校

石榑小学校コミュニティスクール事業

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

児童や学校を取巻く問題を地域の課題として捉え、共に解決するため、200人も地域住民が学校運営や学校支援、学校と地域との交流事業に関わっています。学校を地域コミュニティの拠点として位置づけ、地域住民が主体となって日常的に交流が行われています。子どもや学校の課題にとどまらず、地域課題を解決するための協働の場として学校づくり・人づくり・地域づくりに取り組んでいます。

事業概要

- **地域が学校運営に参加しています**
 - ・市の指定を受けた学校運営協議会として、学校運営方針の協議と評価
 - ・地域と学校の連携を高めるための調査研究
- **地域が学校を支援しています**
 - ・校舎校地の清掃、花木の管理
 - ・地域図書館として、学校の図書室の管理運営、読み聞かせの実施
 - ・生花、料理、手工芸、学習など住民が得意分野で先生となり、児童に教える「わくわくスクール」
 - ・総合学習のゲストティーチャー（養蚕、お茶摘み、米作り等）
- **地域が児童の安全を守っています**
 - ・「見守り隊」による登下校の同行、出迎え
 - ・「子どもを守る家」訪問の隔年実施
 - ・「防犯教室」
- **地域のことを誇りに思えるようなイベントを学校と共同開催しています**
 - ・石榑の里まつり（毎年11月実施）
 - ・石榑トンネル開通を記念したトンネル見学遠足（平成23年3月実施）
 - ・校歌にも歌われている地域の山「竜ヶ岳」登山（毎年2回実施）
- **地域が学校との交流の取組を発信しています**
 - ・広報誌の作成、校区全戸配布
 - ・地域ホームページの開設
- **地域資源等を活用し交流を充実させています**
 - ・国道の草刈を受託し交流事業の費用確保
 - ・町内企業による社会貢献活動との連携（海外支援衣料回収等）
 - ・名古屋大学院との連携と協働（石榑の里まつり、地域アンケート）



校舎環境整備



地域産業のお茶を学ぶ



わくわくスクールのひとつ「花あそび会」



地域住民の1/4が集う石榑の里まつり

評価・
マスコミ
紹介等

- ・総務省の定住自立圏等推進調査事業「学校を拠点とした地域づくり推進事業」採択（H25年）
- ・未来を強くする子育てプロジェクト「未来大賞」「文部科学大臣賞」受賞（H24年）
- ・地域による学校支援活動推進にかかる文部科学大臣表彰（H24年）
- ・子どもたちの“こころを育む活動”「全国大賞」受賞（H24年）
- ・中部の未来創造大賞「大賞」受賞（H23年）
- ・あしたのまち・くらしづくり活動賞（H23年）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
 電話 0594-78-3507
 FAX 0594-78-3526
 住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランド No

22

更新

H29.7.1

ふるさとの川にすむ ネコギギを守りたい

員弁川水系ネコギギ保護増殖事業

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

国指定天然記念物ネコギギと自然豊かな河川の再生に向けて、「専門家」「行政」「地域住民」が、交流し合意形成を図りながら、次の世代につながる川づくりと地域づくりの取り組みを継続的に進めることを目指した先駆的な取り組みです。市内河川で保護したネコギギを家系管理しながら水族館等で繁殖しています。将来飼育下で増えたネコギギを川へ戻す計画です。

事業概要

○清流の象徴ネコギギの保護

ネコギギ（ナマズ目ギギ科）は、三重県、岐阜県、愛知県の伊勢湾周辺域河川にのみ分布する日本固有の純淡水魚で、清流の象徴（シンボル）といわれています。

1990年以降の調査で員弁川水系ネコギギの生息は危機的な状況になっていることがわかりました。そこで、ネコギギ保護の活動を行っています。

○員弁川水系ネコギギ保護増殖事業

- 1 ネコギギの生息状況調査
- 2 員弁川水系ネコギギの飼育増殖
- 3 生息環境調査及び環境改善
- 4 ネコギギの試験放流計画及び実施

○地域に広がる保護活動

ネコギギが生息する地域の小学校が取り入れる川の環境学習をテーマとした総合学習で、ネコギギについて知る授業を取り入れたり、PTAが主体となりネコギギの勉強会や川に生息する魚類の親子観察会などを開催したりして、地域ぐるみの活動が芽生え始めています。

いなべ市HP

<http://www.city.inabe.mie.jp/kyoiku/nekogigi/index.html>

（ネコギギ保護のための活動）



川で泳ぐネコギギ



ネコギギ飼育作業の様子



十社小学校 ふるさとの川学習

評価・
マスコミ
紹介等

- ・書籍コラム掲載「淡水魚保全の挑戦」日本魚類学会自然保護委員会(編)(H28年12月14日)
- ・ミヤコタナゴ保全シンポジウム 千葉県立中央博物館(H28年2月20日)
- ・富山県水見市イタセンバラ放流式典(H27年10月3日)
- ・湧水保全フォーラム全国大会inおがき(H26年10月27日)
- ・三重テレビ放送「旬感☆みえ」(H26年6月25日)

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-78-3521
FAX 0594-78-3509
住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランド No

26

更新

H29.7.1

プールで育む子どもの元気 ～安全と笑顔～

海洋センタープール事業

事業開始年月日 平成23年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

保育園児を対象にした「アクアリズム運動教室」は、海の無いいなべ市で水に親しむ機会を提供し、体力向上を図っています。小学生を対象にした「水辺の安全教室」は、学校と協力して自分の命は自分で守るという自助意識の向上を図っています。B&G財団の海洋センターの管理運営全般評価で7年連続最高位の特Aを更新中です。平成25年度新設の「全国指導者会会長賞」（地域指導者会の運営が、他の指導者会の模範となると認められたときや、特に優れた活動などと認められたとき、表彰する）を三重県内で唯一受賞しています。

事業概要



教室の会場
「員弁運動公園海洋センタープール」



動物ものまね体操で準備体操



リズム水泳（音楽に合わせて）



B & G 財団の研修、訓練を受けてインストラクターとなった市の職員が、各教室を開いています。

○アクアリズム運動教室

子どもたちの体力が低下傾向にあります。そこで、保育園児（年中、年長）を対象に、「アクアリズム運動教室」を開催しています。プールでのあそびやリズム運動などを通して、水に親しみ楽しみながら、体力の向上を図ります。さらに、協調性や思いやり、順番を守るなどの規律性も育みます。

トラクター）が学校へ出向き、「水辺の安全教室」を開催しています。

“水に近づかない”ことを教えるのではありません。

水の安全について正しい知識を得て、水辺での活動が楽しいものになるため、いざという時に誰にでもできる対応を学習します。

指導内容は、着衣泳、ペットボトルなど身近なものでの浮遊体験、ライフジャケット浮遊体験などです。

○水辺の安全教室

水の事故をゼロにするため、職員（B&G インス



背浮きの練習



水辺の安全紙芝居



ペットボトル浮遊体験



落水体験
（落ちたらすぐ背浮きの練習）

評価・
マスコミ
紹介等

・NHK「ほっとイブニングみえ」で水辺の安全教室紹介(H26年)
・B&G財団 特A評価(H22年～H28年)
・B&G財団
平成25年度 全国指導者会会長賞 受賞

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-78-3521
FAX 0594-78-3509
住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

ブランド No

16

更新

H29.7.1

美しい水環境の創出

いなべ市公共下水道事業・農業集落排水事業・合併浄化槽設置整備事業

事業開始年月日 いなべ市公共下水道事業 平成7年4月1日 農業集落排水事業 平成3年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

污水处理人口普及率は、県内の市で第1位、三重県の平均82.6%を大きく上回る99.3%と非常に高い普及率を誇ります。市民の皆様のご理解とご協力により、早期に整備を行うことができました。高い普及率が示すとおり、快適で衛生的な生活環境が整備され、河川など自然環境の保全や住みやすく自然豊かなまちづくりに大きく貢献しています。

事業概要

○ 広域における生活排水処理 3つの区域でカバー

いなべ市は、公共下水道区域と農業集落排水区域及びそれ以外の区域に分かれて生活排水処理を行っています。公共下水道区域は員弁町・大安町・北勢町内の阿下喜地区・治田地区・山郷地区の一部と藤原町内の員弁川右岸区域（東藤原地区・西藤原地区・白瀬地区・中里地区の一部）を桑名市・四日市市など北勢7市町が運営している北勢沿岸流域下水道として統合污水处理を行っています。（供用開始は平成7年4月から）

また、農業集落排水区域は北勢町内の十社地区・山郷地区の一部と藤原町内の員弁川左岸区域（立田地区・中里地区の一部）に12箇所の処理施設があ

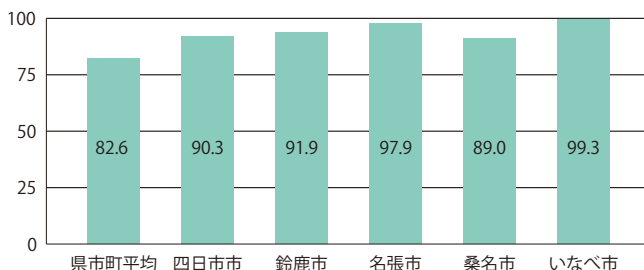
り、污水处理を行なっています。（供用開始は平成3年4月から）それ以外の区域は、合併浄化槽による污水处理を行なっています。

○ 高普及率 自然豊かなまちづくりに貢献

これらの整備を行うことにより、蛍の生息が非常に多く確認できるようになりました。（学校などで様々な環境教育を実践している）

平成16年度と22年度に行なわれた住民アンケート評価で、まちづくりの中で良かったものを尋ねたところ、下水道の整備が一番高い結果となりました。また、いなべ市の誇り・魅力の項目では「自然環境」が高く、員弁川の川上に生活を営むものとして環境への意識の表れと考えられます。

污水处理人口普及率 (%)



三重県：生活排水処理施設整備率一覧より（平成28年3月31日現在）

評価・
マスコミ
紹介等

H16、22年度に、いなべ市が実施した「住民アンケート」で、「まちづくりの中で良かったもの」の項目で下水道整備が一番高い評価を得ました。

お問合せ

水道部 下水道課
電話 0594-72-3515
FAX 0594-72-3748
住所 いなべ市北勢町阿下喜2633

ブランド No

17

更新

H29.7.1

地域のHERO消防団

いなべ市消防団

事業開始年月日 平成22年7月25日

こんなところが
「いなべブランド」

常に新しい団員が加入し活力溢れる「いなべ市消防団」。地元企業と地域が人材発掘に協力し、地域を守る消防団を支えています。火災だけでなく土砂災害、山岳救助、市民への防災訓練や啓発でも活躍。地道な訓練と高い統率力により三重県操法大会で優勝し全国操法大会に出場しました。また、平成24年9月の土石流災害における住民避難の活動等が認められ、国土交通大臣表彰を受けました。

事業概要

消防団は消防署と異なり、地域住民が他に仕事をもちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域住民の生命と財産を守るために活動しています。

災害が発生した場合は、消防職員と一体となって迅速に消火活動を行います。火災出動のみならず、土砂災害、山岳救助、行方不明者の捜索などの事案にも出動し、市民の安心と安全を守るために昼夜問わず活動しています。いつ起きるかわからない災害に備え日々訓練をし、地域の消防力や防災力を向上させるとともに、市民への防災訓練や啓発などにより、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。

消防団は地域にとって欠かせない存在であり地域の要です。全国的に適正な消防団員の確保が課題となっていますが、いなべ市では若い団員が常に入団し団員数が確保されています。消防団員のサラリーマン化が進み、ほとんどの団員は企業に勤めながら活動をしています。家庭、企業、地域の理解やサポートがなければ出来るものではありません。家庭、地域、企業が協力し地域を守る消防団を支えています。

2年に一度開催される消防の操作方法の正確さと速さを競う操法大会。平成22年7月の三重県大会に向け2月から訓練を開始しました。勤め先企業や家庭の理解と協力のおかげで、夕方からの訓練には毎日全員が参加。厳しい訓練にも耐え、みごとポンプ車の部で優勝し、全国消防操法大会出場の切符を手に入れました。

その年の11月、愛知県蒲郡市で行われた第22回全国消防操法大会へ三重県代表として出場。いなべ市消防団の名を全国に轟かせました。

また、平成24年7月に開催された三重県大会において小型ポンプの部で準優勝しました。



全国操法大会で健闘するいなべ市消防団

評価・
マスコミ
紹介等

- ・国土交通大臣表彰(全国9団体、2個人)(H25年)
- ・三重県操法大会小型ポンプ部門 準優勝(H24年)
- ・三重県操法大会ポンプ車部門 優勝(H22年)

お問合せ

総務部 危機管理課
電話 0594-74-5898
FAX 0594-74-5160
住所 いなべ市員弁町笠田新田111

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド終了した事業

いなべ市について

ブランド No

18

更新

H29.7.1

納税意識の高いまち、いなべ

市税収納事業

事業開始年月日 平成16年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

市民1人ひとりが、社会の一員として福祉、教育、防災施設等の整った住み易いまち、安心できるまちづくりに深い理解があり、まじめな市民が多いことがいなべ市の特長です。市の予算の根幹を成す市税は、平成15年12月の合併以降、県内の市(14市)の中で収納率第1位を継続しています。

事業概要

- 合併以降、毎年三重県内の市(14市)の中で市税の収納率1位を継続しています。
(収納率：納付していただくべき課税額に対し、納付された額の割合)
- 納税の方法が、口座振替納税、インターネットを利用したクレジット納税、コンビニ納税と、多彩さも県下一です。
- 毎年市内の小学校に出向いて租税教室を実施し、税金の使われ方など税に対する理解を深めていただき、将来の納税意識を醸成しています。
- 事情により納められない方には、分割納付など、親切・丁寧な納税相談を行っています。
- 納付されない方に対しては、債権(売掛金、預貯金、給与など)や不動産(土地や建物)、無体財産(電話加入権や出資金)の差押えなど、法律に基づいた厳格な差押えを実施しています。

【過去5年間の収納率の推移】

単位：%

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
いなべ市	96.7	97.1	97.2	97.7	97.8
2位の市	96.3	96.3	96.4	96.7	97.2
3位の市	94.4	95.0	95.6	96.2	96.7
4位の市	93.6	93.4	94.1	94.9	95.8
5位の市	92.6	93.0	94.0	94.8	95.6

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

総務部 納税課
電話 0594-74-5803
FAX 0594-74-5859
住所 いなべ市員弁町笠田新田111

ブランド No

19

更新

H29.7.1

全国1位※の電子市役所

※人口5万人未満の自治体で

電子市役所推進事業

事業開始年月日 平成20年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

情報化への取り組みを評価する「自治体ITガバナンスランキング」(『日経BPガバメントテクノロジー』2008年春号)で、いなべ市はITの推進体制やセキュリティ管理が評価されて全国1位(自治体規模別ランキング人口5万人未満の部)を、また、「e都市ランキング2009」(同誌2009年秋号)では情報サービスやセキュリティ対策などが評価され、県1位(全国58位、中部・東海エリア10位)を獲得しました。

事業概要

いなべ市のホームページからは、市の情報収集のほかに、政策意見公募、電子申請、クレジット納付、図書館の検索・予約、文化施設や体育施設の仮予約、地理情報システムなどの各種オンラインサービスが利用できます。

また、携帯電話へのメール配信システムでは、計報、防犯・災害情報、学校情報(スクールメール)など、生活に役立つ様々な情報を配信し、多くの市民に利用されています。

平成26年度からは、全国のコンビニエンスストアで住民票や納税証明書などを取得できる「証明書等のコンビニ交付サービス」を開始して、さらに利便性を高めました。

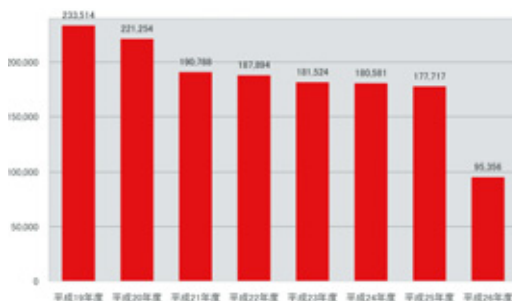
情報の保護に関しては、セキュリティポリシーを策定して市役所内の組織を確立し、内部監査やセキュリティ教育をはじめとする情報漏洩対策の実施により、平成16年から4,836日間(平成29年3月31日現在)、情報セキュリティ無事故を続けており、現在も記録更新中です。

一方、各種情報システムや先進的なシンクライアントの導入(学校)により、電算関連経費の削減も実現しています。

▶▶自治体規模別ランキング
【人口5万人未満】TOP40

順位	総合順位(平均偏差値)	自治体名	人口*	値の
1	12 (69.6)	いなべ市(三重県)	45381	
2	22 (65.1)	小野市(兵庫県)	49801	
3	55 (60.6)	篠山市(兵庫県)	46375	
4	56 (60.2)	南さつま市(鹿児島県)	42084	
5	74 (57.6)	美馬市(徳島県)	34881	
6	98 (55.5)	熱海市(静岡県)	41720	
7	112 (54.3)	八女市(福岡県)	42957	
8	115 (54.1)	豊後大野市(大分県)	42852	

電算経費の削減状況



評価・
マスコミ
紹介等

- ・登記嘱託オンライン手続件数(法務局) 全国1位(H25年)
- ・情報化進展度ランキング(摂南大学) 三重県下1位 全国市の部36位(H21年)
- ・e都市ランキング(日経BP社) 三重県1位 全国58位(H21年)
- ・自治体ITガバナンスランキング(日経BP社) 全国1位(人口5万人未満) 総合12位(H20年)

お問合せ

企画部 情報課
電話 0594-74-5804
FAX 0594-74-5822
住所 いなべ市員弁町笠田新田111

ブランド No

20

更新

H29.7.1

リンクでつなげよう市民の輪

いなべ市情報誌 Link[リンク]

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

思わず手に取ってしまう「表紙」デザイン、次の頁をめくらずにはいられない、最後まで読ませてしまう「特集」、必要な情報をわかりやすく提供する「Pick Up」と「くらしの情報」コーナーなど、“伝わる広報”を目指しています。これらが評価され、平成28年度三重県広報コンクールでは「写真部門（1枚写真・組み写真）」でそれぞれ特選に選ばれました。

事業概要

いなべ市の広報誌は、平成15年12月の合併以来、ぎずな・輪・つながりを意味した「リンク」という愛称で、毎月1回、約1.3万部の発行を続けてきました。平成28年6月号で第150号を迎え、積み上げるとその高さは東京スカイツリーの2倍を超えます。

市制10周年を迎えた平成25年、誌面をリニューアル。これまで業者に委ねてきた編集（DTP）作業

を市の職員が行うようにし、企画から取材、編集まで対応しています。

また、インターネットでもご覧いただけるよう、デジタルブック化しホームページに掲載しています。

【デジタルブック】<http://www.city.inabe.mie.jp/shisei/koho/link/index.html/>



表紙



特集



PickUP



いきいき！マイタウン



さんぽ道

評価・
マスコミ
紹介等

- ・全国広報コンクール
- ・H28年度 写真部門(組み写真)入選
- ・三重県広報コンクール

	広報紙	1枚写真	組み写真
H28年度		特選	特選
H27年度	特選		特選
H26年度	入選		入選
H25年度	特選		
H22年度		入選	入選
H21年度	入選	入選	入選

お問合せ

企画部 広報秘書課
 電話 0594-74-5820
 FAX 0594-74-5821
 住所 いなべ市員弁町笠田新田111

ブランド No

21

更新

H29.7.1

YouTube とつながる映像館

いなべ市ホームページ「映像館」

事業開始年月日 平成19年10月1日

こんなところが
“いなべブランド”

無料で動画投稿ができるポータルサイト「YouTube」を活用した映像配信。YouTube に投稿した動画やタイトル、解説文などを市ホームページに「映像館」として表示し、ページの管理も手がかりません。この「YouTube」を活用した映像配信の取り組みは全国で2番目、自治体ホームページとの体系的な連携は全国初で、このことはNHK「おはよう日本」でも紹介されました。

事業概要

いなべ市のホームページの「映像館」には、YouTube に投稿した最新映像をはじめ、これまで投稿された映像のキャプチャ画像がズラリと表示されます。

各動画には、新着情報のほか、「いなべ10」、「ふれあいネット in いなべ」「東近江市スマイル観光」「PICK UP! INABE GUIDE」などのカテゴリに分け、豊富な動画を楽しむことができます。



いなべ市ホームページ



YouTube サイトのいなべ市チャンネル

評価・
マスコミ
紹介等

- ・H28年度三重県広報コンクール映像部門 特選
- ・H27年度三重県広報コンクール映像部門 特選
- ・H26年度三重県広報コンクール映像部門 入選
- ・H23年度三重県広報コンクール映像部門 入選
- ・H21年度三重県広報コンクール映像部門 特選
- ・H19年度三重県広報コンクール映像部門 入選

お問合せ

企画部 広報秘書課
 電話 0594-74-5820
 FAX 0594-74-5821
 住所 いなべ市員弁町笠田新田111

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド終了した事業

いなべ市について



ブランド No

23

更新

H29.7.1

先進的文書管理 「ファイリングシステム」

文書管理適正化事業

事業開始年月日 平成17年3月1日

こんなところが
「いなべブランド」

「ファイリングシステム」はフォルダを中心とした文書管理システムで、一般的な簿冊によるものと比較して、検索性・セキュリティに非常に優れたシステムです。この「ファイリングシステム」は、平成23年4月に施行された公文書管理法に基づくガイドラインに則したもので、県内の自治体では、いなべ市が初めて導入しました。

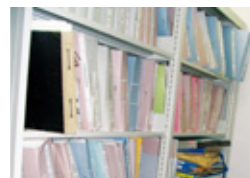
事業概要

- ① 「ファイリングシステム」は課で文書を集中管理します。文書は、職員個人の引き出しにしまわれたり、簿冊に綴じ込まれてしまうことがなく、すべてフォルダに入れられ、課のキャビネットに階層化されて保管されます。
- ② 文書の発生から、保管、保存、廃棄までを一貫して記録する「ファイル基準表」を年度ごとに作成し、過去の文書であっても、誰でも、その所在がすぐに分かります。
- ③ 全庁一斉に、キャビネットの上段に入れられた現年度の文書は、翌年度には下段に、翌々年度には書庫に整理されながら移動します。
- ④ 「ファイリングシステム」では事務用品も一括保管するため、執務環境も改善されました。毎日の終業時にはキャビネットを施錠して、情報漏えいの防止にも努めています。

【導入前】



書類があちこちに見えます。



簿冊に綴じ込まれた文書は、担当者でも探すのがたいへんでした。

【導入後】



スッキリとした執務環境で、仕事の効率も上がります。



担当者でなくても、必要な文書をキャビネットからすぐに探し出せます。



2年以上過去の書類も書庫で整理されているため、すぐに取り出せます。



文書は綴じずに紙のフォルダに入れます。

評価・
マスコミ
紹介等

行政視察受入
島根県安来市 (H25年)
高知県四万十町 (H24年)
三重県鳥羽市 (H24年)

お問合せ

企画部 法務課
電話 0594-74-5824
FAX 0594-74-5851
住所 いなべ市員弁町笠田新田111

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

THIS IS INABE BRAND

終了した
いなべブランド
事業

ブランド No

4

更新

H28.6.1

みんなでサポート「働く笑顔」

障がい者就労支援事業

事業開始年月日

平成20年5月30日～平成27年3月31日※障がい者就労支援は平成28年度に就労支援事業所が出来たことから移管しました。相談業務は「障がい者相談支援センターそういん」に委託しています。

こんなところが
“いなべブランド”

働く意欲があってもなかなか就労に結びつかない障がい者の方を支援するため、障がいの特性や本人の希望に合わせて、仕事を体験する職場実習を行います。職場実習を通して知ることができた特性（長所・短所など）を記載した資料（アビレコ Ability Challenge Record：技能開発履歴）を作成し活用することで、会社や事業所などでの支援を受けやすくなります。特徴的、先進的な事例として総務省「市町村の活性化新規施策事例」に取り上げられました。

事業概要

○事業の趣旨及び目的

一般就労が難しいとされる障がい者の就労を支援するため、仕事を体験する機会（職場実習の場）を確保し、就職、復職、職場適応に向けた支援を行います。職場実習をとおして、さまざまな仕事の経験や働く準備をすることで、社会的自立を目指すとともに、地域で豊かにいきいきとした生活を送るための支援をします。

○こんな支援をします

就労したいという気持ちを尊重し、職場実習を重ねることで、次のような支援を行います。

- ① 人間関係、職場内のコミュニケーション（挨拶、報告、職場内マナー等）のとり方を支援します。
- ② 労働習慣（毎日続けて働くこと、職場のルールを守ること、生活のリズムをつくること）を身につける支援をします。
- ③ 仕事をする力（作業の内容の理解、作業をスムーズに行う力の向上、作業する態度を学ぶこと）を身につける支援をします。
- ④ 作業の適性やできることの把握をして、企業や障がい福祉サービスを提供する支援者などから支援を受けやすくするための評価表をお渡しします。

○利用開始からの流れ

- ①施設研修
いなべ市社会福祉協議会の施設で約1か月間研修を行い、障がい特性、希望などをもとに職場実習先を検討
- ②職場実習
数か所の職場実習先で、最大6か月間の職場実習
- ③実習結果報告
実習結果を伝え、評価表を渡す。
- ④就職活動
評価表を活用し、ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなどの専門機関の支援を受けて就職先をさがします。



職場実習の様子

評価・
マスコミ
紹介等

・市町村の活性化新規施策200事例
総務省監修（H20年度）で紹介

お問合せ

福祉部 社会福祉課
電話 0594-78-3511
FAX 0594-78-1114
住所 いなべ市大安町大井田2705

ブランド No

13

更新

H28.6.1

ホタルの里づくり

立田小学校ホタルの里づくり事業

事業開始年月日

平成5年4月1日

※立田小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

こんなところが
「いなべブランド」

ホタルの繁殖、放流によるホタルの里づくりに取り組み 23 年。屋外飼育にも成功し毎年ピオトープや校庭を乱舞するホタルの姿が見られます。児童と地域が共に学ぶ「春の遊学祭」「夏のホタルの会」「秋の山の神」など、四季折々の活動による里づくりを行っています。ホタルの里づくりの取り組みは、教育や環境関連団体から高く評価され多くの表彰を受けています。

事業概要

郷土唱歌『立田村の歌』に「員辨郡の西北にめぐる熊坂烏帽子岳、白雲檐に近くして山川清き立田村」と謳われるように、立田小学校ではあふれる郷土愛と豊かな自然を活用して地域に根ざした屋根のない学校づくりを進めています。

この取り組みの中心的な活動である『ホタルの里づくり』の取り組みはかつてこの地域に満天を染めるほどに飛翔したホタルを題材に、生息する揖斐川の源流の一つである赤尾川や地域の用水やピオトープの環境を比較研究し、環境問題について探求する糸口にしてきました。合わせて、ホタルの繁殖・放流によるホタルの里づくりにも取り組んできました。

これらの活動は児童の主体的な継続的な探求活動であり、毎年6月の研究発表会「ホタルの会」とそれに続くホタルボランティア活動により成果の報告を行っています。ホタルの里づくりの取り組みは多くの環境教育賞を受賞し、現在も、ホタルの育つピオトープ『天の川』で飼育観察を継続しています。

「ホタルの里づくり」の取り組みは児童の主体的な探求活動として歳月を重ね、ホタルの育つ地域の環境に学び、繁殖を試み、毎年、校庭を舞うホタル

の姿があります。

ピオトープ「立田の天の川」も完成し、屋外飼育にも成功しました。4月の上陸、6月の飛翔とホタルの幻想的な姿と合わせて、3月のホタルの洗い出し・放流、6月のホタルの会・ホタルボランティアなど季節ごとにご案内しています。

また、山村留学活動の一環として「川下り」「龍王登山ともちつき」「山の神」等地域とともに取り組んでいます。



「ホタルの会」での研究発表（6月）



ホタルの幼虫の放流（3月）

評価・
マスコミ
紹介等

- ・文部科学省・優れた『地域による学校支援活動』文部科学大臣表彰（H25年度）
- ・学生協：「わたしたちの環境活動」研究論文 最優秀賞（H17年度）
- ・環境省：環境保全功労者等環境大臣賞受賞（H16年度）
- ・第2回ソニー子ども科学教育プログラム努力校（H15年度）
- ・朝日新聞社：朝日のびのび教育賞（H13年度）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-78-3507
FAX 0594-78-3526
住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド
終了した
事業

いなべ市について

ブランド No

14

更新

H28.6.1

学校と地域が取り組む 花壇づくり

中里小学校花づくり事業

事業開始年月日

昭和46年4月1日

※中里小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

こんなところが
“いなべブランド”

花壇づくりに取り組んで約40年。「花の中里」の取り組みは、花を通じた地域との交流へと広がっています。花の作業を地域の方と一緒にしたり、育てた苗を地域の方に配ったり、町内の施設に花を飾ってもらったりしています。伝統の花づくりは、地域の、そしていなべの誇りです。

事業概要

FBC（フラワーブラボーコンクール）に参加して約40年以上になります。これまでの先輩方のご尽力の上に立って、今も継続して取り組みを進めています。中里の花づくりは、5年生の児童が中心となって活動し、発送された種のみを使用して、コンクールに臨むものです。

児童がテーマに合ったデザインを考え、指定花壇に配置・定植します。毎日栽培日記を書き、水やりも交代で行い、春花壇・秋花壇と一年中世話をします。このFBCは、立派な花壇を作るだけでなく、他学年の花壇作り、教科との関連、地域との連携も評価の対象となります。中里小では5年生が育てた苗を使って、全学年が花壇づくりに取り組んだり、保護者や地域の方々をはじめ老人ホーム等へも苗や花を届けたりしています。

このように学校全体で花づくりに取り組み、花を通して地域との交流を深めています。

予備審査を合格すると、さらに本審査が行われ、花壇の評価が決定します。近年県下で連続ベスト5にはいっており、児童・教師の頑張り、そして地域の方々を巻き込んだ取組が評価されたのだと思

います。素人の集団ですが、みんなが少しでも良い花壇を作ろうと奮起している証拠です。ライトアップも春・秋の2回実施し、多くの参観者を得ています。



平成27年度 秋花壇の前で



種まきから始めます
(5年の保護者・学援隊のみなさんと)

評価・
マスコミ
紹介等

FBC（フラワーブラボーコンクール）中日新聞社・県教育委員会共催
・三重テレビ賞（H27年10月）
・三重県教育委員会賞（H26年10月）
・大賞（H25年10月）
・中日新聞社賞（H25年4月、H24年10月、H23年5月、H22年10月）
・三重県知事賞（H24年4月）
・三重県教育委員会賞（H23年10月）
・内閣総理大臣賞（H22年5月）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-78-3507
FAX 0594-78-3526
住所 いなべ市大安町大井田2704

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド事業
終了した

いなべ市について

THIS IS INABE BRAND

いなべ市について

いなべ市について



三重県の北の玄関口に位置するいなべ市は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいただき、田園地帯が広がる緑豊かなまち。花の百名山「藤原岳」、笹原の「竜ヶ岳」、滝巡りの「宇賀溪」、西日本人気 No.1 の「青川峡キャンプパーク」など、豊かな自然が育むアウトドアスポットが満載です。また、日本でたった3路線しかない線路幅762ミリの「北勢線」が走るまちでもあります。一世紀の時を刻むように、かわいい黄色の電車はのんびりと走り続けています。



良質米やお茶の産地として知られる一方で、自動車関連企業などが立地し、活力ある都市として発展を続けています。2020年に開通予定の東海環状自動車道により、更なる飛躍が期待されています。何より、元気な市民でいっぱいです。市民は生き生きと暮らし、まちは活気に溢れています。地域を誇りに思い、ふるさとへの愛着を育むまちづくり、市民が主役のまちづくりを進めています。

ブランドの目的

いなへブランド既存事業

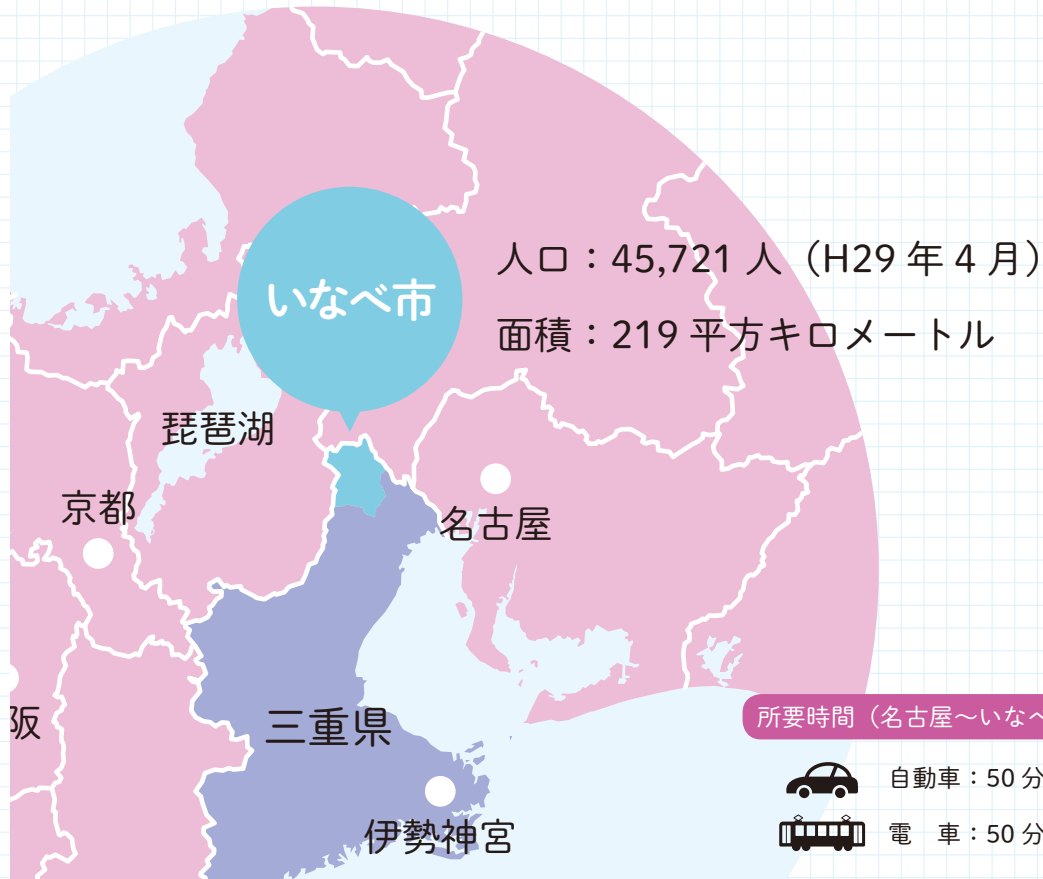
いなへブランド終了した事業

いなへ市について

いなべ市のすがた

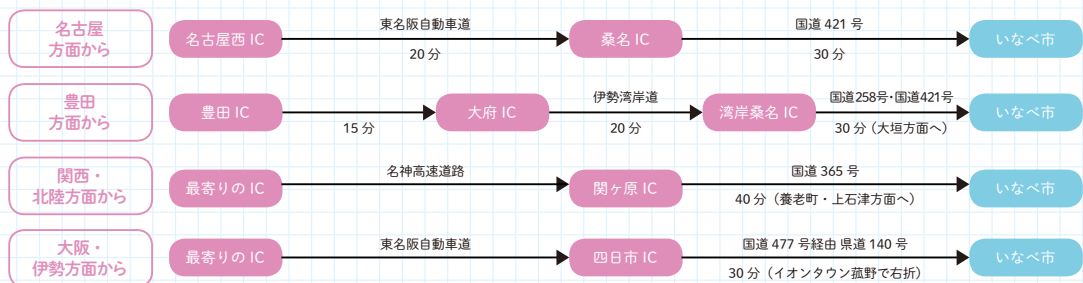
項目	単位	いなべ市	調査年又は調査年度	備考	
総面積	km ²	219.83	平成26年度	一部境界未定のため概算数値です。	
総人口	人	45,815	平成27年	平成27年国勢調査	
人口密度	人/km ²	208	平成27年	総面積1 km ² 当たり 平成27年国勢調査人口÷総面積	
人口増減	%	100.2	平成27年	平成27年国勢調査人口÷ 平成22年国勢調査人口	
世帯数	世帯	17,106	平成27年	平成27年国勢調査	
1世帯当たり人員	人	2.68	平成27年	平成27年国勢調査人口÷ 平成27年国勢調査世帯数	
財政	予算規模	千円	22,812,079	平成27年度	平成27年度地方財政状況調査
	標準財政規模	千円	14,626,571	平成27年度	
	財政力指数		0.849	平成27年度	
	経常収支比率	%	99.9	平成27年度	
	実質公債比率	%	10.5	平成27年度	
出生数	人	346	平成27年	平成27年度決算統計年分 人口動態統計 (平成27年10月1日～ 平成28年9月30日)	
死亡数	人	480	平成27年		
転入者数	人	2,035	平成27年		
転出者数	人	1,932	平成27年		
事業所	事業所数	所	1,811	平成26年	平成28年経済センサス活動調査 (速報値)
	従業者数	人	29,339	平成26年	
農業	農家数	戸	1,001	平成27年	2015年農林業センサス
	耕地面積	ha	2,127	平成27年	
工業	製造事業所数	所	178	平成26年	平成26年工業統計調査結果 (確報値)
	工業従事者数(従業者4人以上の事業所数)	人	17,169	平成26年	
	製造品出荷額等(従業者4人以上の事業所)	百万円	110,568,389	平成26年	
商業	商店数	店	336	平成26年	平成26年商業統計調査結果 (確報値)
	商業従事者数	人	1,868	平成26年	
	年間商品販売額	百万円	42,550	平成26年	
学校	小学校数	校	15	平成28年度	平成28年度いなべ市教育要覧
	小学校児童数	人	2,440	平成28年度	
	中学校数	校	4	平成28年度	
	中学校生徒数	人	1,265	平成28年度	
医療	病院数	院	4	平成27年度	平成28年度桑名保健所年報 (平成27年度実績)
	一般診療所数	所	25	平成27年度	
	歯科診療所数	所	17	平成27年度	
	医師数	人	79	平成27年度	
	歯科医師数	人	16	平成27年度	
	看護師数	人	423	平成27年度	
	准看護師数	人	124	平成27年度	
薬剤師数	人	88	平成27年度		

年は暦歴(1月から12月)、年度は会計年度(4月から翌年3月)を示します。

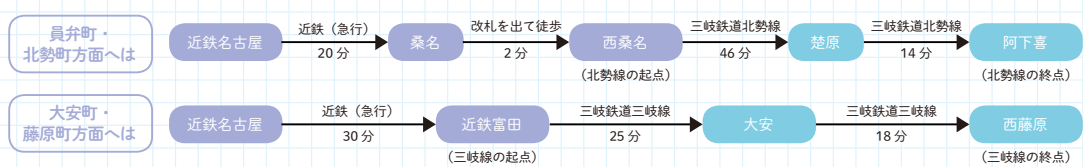


交通のご案内

お車のご利用



電車のご利用



★時刻等についてのお問い合わせ
 ・近鉄桑名駅 TEL：0594-22-0045 ・近鉄富田駅 TEL：059-365-0300 ・三岐鉄道 TEL：059-364-2141 ・三重交通 TEL：0594-72-2469



THIS IS INABE BRAND

2017 年版

発行日 平成 29 年 7 月 1 日

発行 いなべ市

編集 企画部政策課

〒511-0293 三重県いなべ市員弁町笠田新田 111 番地

TEL 0594-74-5840 <http://www.city.inabe.mie.jp/>